Firebaseアカウントを作成し、Firebase Webサイトで最初のプロジェクトを作成したので、次はAndroidのセットアップを開始します。

Flutterのみを使用してアプリを作成している場合は、このレッスンをスキップして、iOS用に設定した次のレッスンに進むことができます。

最初にAndroidアプリを追加しましょう。小さなAndroidシンボルがここに表示されます。そして、Androidパッケージ名を把握する必要があります。

それで、どうやってこれを見つけますか？

それが示唆しているように、それはアプリレベルのビルドグラドルファイルにあり、アプリケーションIDと呼ばれるものの下にあります。

したがって、プロジェクトに戻ってandプロジェクトでandroidフォルダーを開き、プロジェクトビューにいることを確認したら、アプリフォルダーに移動してアプリフォルダー内にあるビルドグラドルに移動するとプロジェクトに含まれているものではなく、それでここで終わります。

そして、ここを見ると、アプリケーションIDが見つかります。これがFirebaseに提供する必要があるものです。

通常、アプリケーションIDはAndroidアプリストア全体で一意である必要があります。

したがって、この部分を自分の名前に変更することをお勧めします。

だからアンジェラ・ユーかもしれないし、あなたの名前が何であろうとね。

会社がある場合は、逆ドメイン名を必ず入力してください。

Flutterはこの名前をどのようにして思いついたのでしょうか？

まあ、新しいFlutterプロジェクトを作成するときはいつでも、提供する必要があるものの1つは、このセットアップウィザードの企業ドメインです。

会社がwww.google.comである場合、com.googleのパッケージ名を作成するとします。アプリの名前。

これがco.appbrewery.flash\_chatについての説明です。

したがって、これを独自の名前または独自のドメインに変更したら、文字列全体をここにコピーして貼り付けます。

ここで、ここに表示されるものが、もちろん引用符を含まずに、アプリケーションIDのキーとして持っているものと正確に一致することが本当に重要です。

それが終わったら、先に進み、登録アプリをクリックしてください。

そして、スピナーが停止したら、google-services.json構成ファイルを今すぐダウンロードします。

これを1回クリックするとgoogle-services.jsonがダウンロードされますが、多くのコンピューターでは、誤って2回クリックすると、別のファイルがダウンロードされるということが非常に重要です。ファイルの名前の後に実際に1つあること。

また、ダウンロードフォルダーにこれらのファイルのいずれか1つだけが含まれていることが非常に重要であるため、ファイルの名前に追加されたファイルで終わることはありません。

そしてその理由は、Firebaseはgoogle-services（1）.jsonと呼ばれるものではなく、google-services.jsonと呼ばれるファイルを見つけようとしているためです。

ですから、これは人々がつまずく本当に一般的な場所ですので、それに気づくことが重要です。

このファイルを取得したら、Android Studioを開き、FinderまたはWindowsエクスプローラーでそのファイルがある場所を開きます。

そして、アプリフォルダーを目指してドラッグします。そのため、アプリフォルダが強調表示されているフォルダであることを確認してください。

それでは、先に進んでアプリフォルダーに追加します。Gitに追加するかどうかは関係ありません。

実際にはプロジェクトには影響しません。

これで、アプリフォルダー内にgoogle-services.json json全体が表示され、次のセットアップ手順に進む準備が整いました。

それでは先に進み、次へをクリックしましょう。

そして今、私たちがしなければならないことがもう少しあります。

したがって、プロジェクトレベルのビルドグラドルを開く必要があるため、project / build.gradleの下にあります。

したがって、ビルドグラドルという名前でAndroidプロジェクト内にあるものを指します。

そして、ここには依存性と呼ばれるものがあります。

そして、私たちがやろうとしているのは、このコード行をコピーして、他の依存関係の下に追加することです。

ただし、依存関係の中かっこ内にあることを確認してください。

そして、アプリレベルのbuild.gradleを開く必要があります

したがって、これはproject / app / build.gradleの下にあり、この中にあるものです。

したがって、appフォルダー内にbuild.gradleがあります。

そして、ここにもいくつかの依存関係があります。

そして、この行をコピーして、Appレベルのbuild.gradle内の依存関係に追加します。

ここに貼り付けます。

また、Googleサービスファイルを実装するこの行を、ファイルの一番下、他のすべての下、および他のすべての中括弧の外側にコピーします。完了したら、これらのファイルをすべて閉じて、Androidエミュレーターが選択されていることを確認します。

先に進み、すべてが期待どおりに機能することを確認するためだけにアプリを実行します。

すべて順調に進み、エミュレーターまたはデバイスでアプリが実行されます。

また、実行タブの内部を見ると、非推奨になっているものやFirebaseからのメッセージが表示される場合があります。

ただし、コンソール内のrun consoletabの下に赤色で何も表示されず、アプリが実際にロードされる限り、これについて心配する必要はありません。これは、FirebaseがAndroidアプリで動作するように設定したことを意味します。

これで、次にヒットできます。この最後の手順をスキップして、コンソールに進みます。 そして、iOSアプリをセットアップする次の部分に進む準備ができました。